

○引用文献

- 一ノ本明英・永瀬幸一, 2000. 兵庫県・関宮町 鉢伏高原産蛾類目録. 一ノ本明英 パークホテル白樺館, : 1-36
- 松尾隆人, 2010. 段ヶ峰における南方系蛾 2 種の記録, きべりはむし, 33 (1) : 17
- 松尾隆人, 2020. 氷ノ山・鉢伏山の注目すべき蛾類の記録, きべりはむし, 43 (1) : 29-35
- 岡本俊治, 2010. ハチ北高原でキマエコノハを採集, きべりはむし, 33 (1) : 17

(Hiroshi IKEDA 檀原市昆虫館)



図1 兵庫県小野市黍田町, 2020年7月26日

小野市と明石市でタイワンタケクマバチを確認

柴田 剛

タイワンタケクマバチ *Xylocopa tranquebarorum* (Swederus, 1787) は, 中国, 台湾原産の外来のハチで2006年に愛知県と岐阜県で発見され, その後急速に中部地方を中心に分布を拡大しているといわれている. 現在確認記録として報告されているのは15府県(埼玉県, 静岡県, 石川県, 福井県, 長野県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 岡山県, 鳥取県)であるが, インターネット上では他に東京都での確認情報が見られる. なお, 愛知県に侵入したものは, ミトコンドリアDNAの解析により中国(大陸)由来であると推定されている(川添, 2019).

兵庫県内では2018年に尼崎市で確認されている(上森, 2018)が, その他の確認記録はないようであり, このたび小野市と明石市で採集することができたのでここに報告する. また, 加古川市在住の高田昌慶氏から2020年8月14日に加古川市上荘町国包で採集したという情報を提供いただいた. さらに, 愛知県移入種対策ハンドブックの付属資料編「愛知県の移入動植物ブルーデータブックあいち2012」に, 国内の分布として「2011年の兵庫県赤穂市と岡山県倉敷市での確認」が大草伸治氏の私信として掲載されている. この他に, 文書による記録ではないがインターネット上に, 三田市で2020年5月30日に観察したとの情報が見られる.

本種の分布状況等については, 愛知県でクマバチの研究を行っておられる川添和英氏および檀原市昆虫館の池田 大氏にご教示いただきました. また, 高田昌慶氏からは写真とともに加古川市での確認情報を提供いただきました. 末筆ながらお礼を申し上げます.

【確認情報】

1. 採集・撮影: 小野市黍田町(加古川の土手)(図1)

確認年月日: 2020年7月26日

確認個体: 1♀

訪花植物: ミドリハッカ, 別名スベアミント(シソ科), ムラサキツメクサ(マメ科)

2. 採集: 明石市茶園場町(明石川の河川敷)

確認年月日: 2020年8月9日

確認個体: 1♀

訪花植物: アレチハナガサ(クマツヅラ科)

○参考文献

- 愛知県環境部自然環境課, 2012. タイワンタケクマバチ. 愛知県の移入動植物ブルーデータブックあいち2012, 111
- 浅野隆, 2018. タイワンタケクマバチを浜松市三ヶ日町で採集. 駿河の昆虫, 266: 7280-7281
- 上森教慈, 2018. 兵庫県尼崎市でタイワンタケクマバチを採集. きべりはむし, 41(1): 31
- 川添和英, 2019. 本州中部に定着した外来種タイワンタケクマバチの遺伝子解析に基づく原産地の推定, なごやの生物多様性6: 29-31
- 小松貴・古川桂子・井坂友一, 2012. 長野県中部に侵入したタイワンタケクマバチ. *New Entomologist*, 61: 63-65
- 高橋秀男, 2019. タイワンタケクマバチを埼玉県で採集. 月刊むし, 584: 46-47
- 田村昭夫・大生唯統, 2018. 鳥取市で発見されたタイワンタケクマバチ. ゆらぎあ, 36: 1-3
- 富永修, 2020. タケクマバチは, 奈良市内に普通にいる. ならがしわ, 211: 4

(Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市)